

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790400527	
法人名	有限会社 アロー商事	
事業所名	グループホーム我が家 好間	
所在地	福島県いわき市好間町下好間字鬼越42-3	
自己評価作成日	平成 25年 1月 11日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒970-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	平成25年2月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

心の絆を大切ご利用される皆様方に「我が家のように安心して楽しく暮らせる家」を目指し、職員一同精進しています。利用者様一人ひとりの個性を大事にしアットホームな雰囲気の中で自由にお過ごし頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域のネットワーク・協力事業所や地域活動に積極的に参加し、グループホームのあり方や認知症について理解を深めてもらえるよう情報発信し、働きかけている。管理者と職員は心が大切という思いを持ち、利用者・家族と信頼関係や支え合う関係ができるよう、日々のケアに取り組んでいる。家族と外出、外泊中に利用者には何か困難なことが起きた場合には、いつでも対応できるようにしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所 の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね 満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごさせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスに おおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常々全職員で確認し合い、事業所理念である「心」の絆を大切に我が家のように安心して楽しく暮らせる家を目指しています。	管理者と職員は話し合い、心が大切という思いを込めて理念を作っている。職員は利用者信頼関係が築けるよう理念を、共有しケアの実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員としての役割を果たせるよう地域活動に。積極的に参加出来るように心がけています。 〔「ほほえみネットワーク好間」の協力事業所〕等	「ほほえみネットワーク好間」に積極的に参加し、グループホームを知ってもらえるよう、事業所の状況や情報を発信している。地域の方が訪ねてくれ事業所の花を見たり、利用者とは話等を楽しんでいる。事業所の花壇の花から採種した、種や苗を差し上げている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所を開放的にすることで、地域住民ボランティア等を積極的に受け入れ出来るよう心がけている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議構成員の意見を組み入れながら、サービス向上につなげられるように定期的に開催されています。	事業所のありのままを報告し、活発な話し合いが行なわれている。出された提案や意見を参考にし、ケアの向上に取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じ市町村窓口を訪問し、助言を頂いている。又、介護相談員の研修受け入れ先として市町村に協力しています。	市と事業所の状況報告を伝える等、連絡をとり情報を共有している。管理者は震災時に市からの要請で、避難の人を受け入れて協力し、役所から感謝の言葉をいただいた。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルに沿って拘束のないケアに取り組んでいます。	管理者と職員は利用者のサインを気づいてあげられないのも、拘束だとの考えを持ってケアに取り組んでいる。大きな声やトーンに気づけ話しをするよう、ことばの拘束もしないケアに努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常的にテーマを取り上げ虐待のないケアに努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等を実施し、職員が権利擁護について学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に基づき、分かりやすく説明し、不安部分を聞き取り、理解・納得を得るよう話し合いをしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族来訪時に積極的に意見を交わし、情報の共有をしている。御意見箱を設置している。日常の会話等から利用者の要望は把握出来る。	入居時に利用者・家族・管理者が率直な意見交換をしている。日常的に何でも言える雰囲気が作られている。出された提案、要望等は取り入れるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼、ミーティング、個別面談等で、コミュニケーションが密に取れるよう心がけている。	管理者は職員の要望・意見を聞く機会を持ったり、意見交換をする等、職員の働く意欲や質の向上につなげている。定例会に限らず日常的に気づいたことは、その場でアドバイスするようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に向けた支援や緊急雇用も取り入れ、働きやすい職場環境の整備につとめている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の経験・理解度に応じてそれぞれに合った研修を受ける機会をもうけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	いわき地区管理者会議・研究会等で情報・意見交換をし、サービス向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	知りえた情報をスタッフ間で共有し、利用者と馴染みの関係を築くことで、一人ひとりの思いをくみ取れています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いに耳を傾け、意見交換をしながら信頼関係に努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様・ご家族様と話し合いながら、現在何が必要かを見極め対応することを心がけている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員・利用者の壁を取り払い生活のパートナーとして関わられるよう心がけている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えたい関係を築いている	家族と共にをモットーに、良い関係作りを心がけている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームを我が家と捉え、これまで築きあげられた関係を大切に支援出来るように心がけている。	近隣の方が気楽に立ち寄れる関係ができているので、利用者と継続的な交流ができている。友達に会いに行ったり、馴染みの場所に何時でも行けるように取り組み、これまでの関係がとぎれないよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人の生活の場であることを認識し、共に支え合える我が家であることを心がけている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も、必要に応じて相談・助言出来るように心がけている。ホームの行事等にも参加頂けるようにお知らせしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族からの情報や、ご本人のホームでの暮らしの中で、把握するように努め職員間でも情報共有を出来るよう努めている。	利用者と職員との信頼関係づくりを大切にして、日々の行動や表情から思いや意向を、汲み取り把握している。職員は過去の記憶を呼び覚ますことができるように、焦らず本人の話しに耳を傾けるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの個性を大切にし、個々に合ったライフスタイルを提供出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状況に応じたケアが出来るように申し送り等により情報を共有し安心した生活が営めるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・ご家族と密に話し合い、意向に沿った介護計画を作成している。	本人、家族と話し合い、気づき、意見、要望を反映した介護計画を作成している。本人の状態変化に応じて計画を、その都度話し合い臨機応変に見直しをしている	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアカンファレンス等を常時開催し、情報の共有を出来ることにより介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況に合わせ、臨機応変な対応を努められるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の望まれている暮らしを最重要視し「今日一日を大切に」過ごせることを願いに支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅訪問診療により、ホームドクターとしての役割を担って頂き安心できる医療の確保が取れている。	本人、家族の希望するかかりつけ医となっている。事業所の医療機関が、週一回の検診と2週に一回の訪問診療を行っている。緊急時には、家族の方の協力や医療機関の対応が迅速にできている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関と連携を組み、利用者の健康管理急変時の対応が受けられるシステム作りをしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が安心できる生活が出来るように、協力医療機関との連携を深め入退院に関してもスムーズな意見交換が出来るようになっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療機関が密に出来ることで、本人・ご家族の意向に沿った支援体制が整っている。	入居時に本人、家族と話し合い、重度化や終末期のあり方について確認している。家族、事業所、医療機関の連携が大事と考え現実的な対応をしようとつとめている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の講習会を受講し、緊急時の対応に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を実施し、必要に応じ消防署のご指導を頂いている。また、近隣住民へ災害時の協力を依頼している。	消防署の協力を経て、地域住民参加の避難訓練が行われている。職員は利用者や避難場所、避難経路を確認し合い、安全に避難誘導することができた。事業所は地域の避難所として、近隣の方に協力し貢献している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護法やプライバシー保護の重要性を理解し、きめ細やかな対応を心がけている。	職員は声のトーンを低くする等、プライバシーを損ねないよう耳もとで話しをするようにしている。遠くから利用者に話しかけないよう、必ず近くに行くようにしている。その場の雰囲気を壊さないようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人一人の個性を大切に、希望に沿った生活を送ることが出来るよう働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのライフスタイルに合った、生活を提供できるように努力している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みを重視し、援助出来るようにしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自然な形で参加を励行し、調理から食事まで利用者と職員が共に出来るように心がけている。1回/月自由食を設け、一人ひとりの嗜好に合った食事も提供出来るよう配慮している。	職員は利用者ができることを見極め、食事作りや片付けを一緒に行い援助している。食事作りが自信につながよう表情や行動を見ながら、雰囲気づくりを工夫して働きかけている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりのニーズに合わせた対応が出来るようにしている。必要に応じ主治医・栄養士の指導を受けられる体制を整えている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの力量に応じ、見守りや介助を行い清潔が保持されている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表等の帳票等を活用し、一人ひとりの状況を把握でき自立支援にむけたケアを実践出来るように心がけている。	排泄パターンを把握し表情からサインを汲み取り、ことばかけ等をトイレ誘導をしている。失禁時はすぐ取り替え清潔にし、自立にできるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医療機関の指示を仰ぎながら、自然排便出来るように心がけている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりのライフスタイルに合わせた入浴を実施している。	入浴を嫌がる人には、焦らず雰囲気づくりや声かけ等、いろいろ方法を探りながら気持ちよく入浴できるよう取り組んでいる。リフト入浴できる設備があり、利用者は身体的負担を感じることなく、安全で安心して入浴できるよう配慮し支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのライフスタイルに合わせた生活の実現を支援出来るようしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が、服薬の内容・副作用を理解し、援助している。服薬チェック表にて誤薬・服薬忘れがないように努めている			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の望まれる生活を追求し、生活全般で活躍できる場面などを設けられるよう心がけている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿っての買い物や外食等に掛けるように支援している。	心が通じていれば会話の中から、自分で行きたい所や誰と行きたいか等、意志表示をしてくれ行きたい所へ、出かけられるよう支援している。行事計画で外出する時は、日時は決めず利用者の表情、状態等や天気を考慮し出かけるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常的に、買い物等を実施し一人ひとりの力に応じて金銭管理の支援を出来るように心がけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由にやり取りが出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	製作物や花の栽培等で季節感を取り入れる工夫をしている。	利用者手作りのアイデアが活かされた作品が掲示され、利用者の感性や感覚が、反映された居心地のよい空間となっている。フローアは広くソファが、テーブルからほどよい距離に置かれてあり自由に移動でき、利用者はマイペースで過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各コーナーにベンチ・ソファなどを設置し、一人になったり仲間と談話出来る場を設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや馴染みの物を持ち込んで頂けるように働き掛けている。	自宅との環境のギャップを感じさせないよう、本人、家族と相談しながら個別に対応している。天窓がある居室もあり彩光をとり入れる等、明るく居心地よく過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・トイレ等分かりやすく表示し、自立した生活が送れるように配慮している。		